

エコアクション 21

環境活動レポート

2016 年度版

(2016 年 4 月～2017 年 3 月)



～ Seibu 夜桜～

2017. 4. 撮影 LED 照明によるライトアップ

西部電機株式会社

2017 年 7 月 1 日発行

目 次

1. 組織の概要	1
2. 対象範囲(認証・登録範囲)	2
3. 環境方針	3
4. 環境目標	4
① 全社	4
② 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	5
③ 支店・営業所・サービスセンタ	6
5. 環境活動計画	7
6. 環境負荷の実績とサイト別排出特性	9
7. 環境目標の実績と環境活動計画の取組結果及びその評価、 今後の取組	10
(1) 二酸化炭素排出量の削減	11
(2) 廃棄物排出量の削減	12
① 一般廃棄物排出量の削減	12
② 産業廃棄物排出量の削減	13
(3) 水使用量の削減	14
(4) 物質使用量(購入量)の削減	14
(5) グリーン購入の推進	15
① 事務用品のグリーン購入率の向上	15
② 製造部品のグリーン調達の推進	16
(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進	16
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	17
8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無	17
9. 内部監査の実施状況	17
10. 環境教育訓練の実施状況	18
11. 全体の反省と今後の取組	18
12. 代表者による全体評価と見直しの結果	19
13. 地域への貢献	19

1. 組織の概要

(1) 事業所名及び代表者氏名

西部電機株式会社 取締役社長 宮地 敬四郎

(2) 本社及び支店・営業所所在地

本社	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号	
支店	東京支店	〒136-0071 東京都江東区亀戸二丁目26番11号
	大阪支店	〒530-0001 大阪市北区梅田三丁目4番5号
営業所	名古屋営業所	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	広島営業所	〒730-0051 広島市中区大手町二丁目2番9号
	九州営業所	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
出張所	札幌出張所	〒060-0033 札幌市中央区北三条東八丁目352番地
サービス センタ	東京サービスセンタ	〒272-0014 千葉県市川市田尻一丁目13番2号
	名古屋サービスセンタ	〒468-0015 名古屋市天白区原二丁目3101番地
	大阪サービスセンタ	〒567-0803 大阪府茨木市中総持寺町1番17号
	九州サービスセンタ	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号
工場	本社工場	〒811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号

URL : <http://www.seibudenki.co.jp/>

(3) 環境管理責任者

専務取締役 藤岡 敬正

(4) 担当者連絡先

生産技術部 生産技術課 課長 小粥 市郎
 事務局 権藤 利佳
 TEL 092-941-1525 FAX 092-941-1520
 E-mail : ogai-ic@seibudenki.co.jp

(5) 主要な事業内容

事業部門	主要な商品及び事業
搬送機械（マテハン）部門	立体自動倉庫、ケース自動ピッキングシステム、ピースピッキングシステム、FAシステム、搬送・ハンドリングシステム
産業機械部門	バルブアクチュエータ、ゲート駆動装置
精密機械部門	超精密・高精度ワイヤ放電加工機、高精度小形NC旋盤、高精度自由形状研削加工機

(6) 事業規模

(2016年度実績:2016年4月～2017年3月)

区分	搬送機械	産業機械	精密機械	生産技術部	管理部門	合計
売上高(百万円)	12,781	5,306	5,096	-	-	23,183
従業員数(人) <内支店・営業所>	160 <61>	126 <41>	85 <14>	54	36 <8>	461 <124>
敷地面積	68,928 m ² (本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタの合計)					

2. 対象範囲(認証・登録範囲)

(1) 対象組織

西部電機株式会社 (従業員数 461人)

① 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ

〒 811-3193 福岡県古賀市駅東三丁目3番1号

② 拡大事業所

東京支店

大阪支店

名古屋営業所・名古屋サービスセンタ

広島営業所

札幌出張所

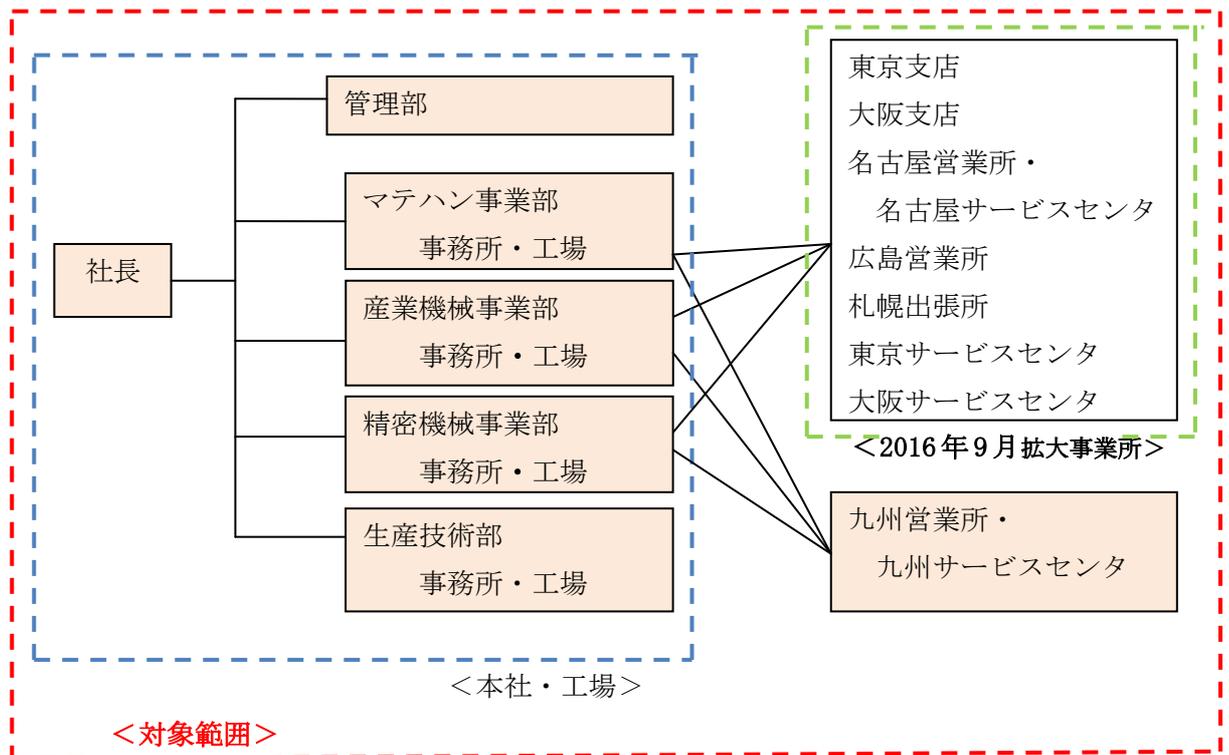
東京サービスセンタ

大阪サービスセンタ

- ・ 上記事業所は、2015年4月より試行運用を開始し、2016年9月に認証範囲を拡大しました。

(2) 対象活動

搬送機械、産業機械、工作機械の製造販売



[全社組織図]

3. 環境方針

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用で、メカトロニクス製品を提供し、広く社会に貢献しています。今、地球環境の改善が世界共通の重要課題として認識される中、当社も企業活動のあらゆる面で地球環境の保全に努めています。今後も「環境と共存する西部電機」を目標に、積極的かつ継続的に改善活動を図ります。

環境スローガン

「未来に残そう豊かな自然」

基本理念

西部電機株式会社は、自然随順に即した技術の応用と、環境に配慮した企業活動及び社員の行動によって、地球環境の保全と改善を継続的に推進します。

行動指針

1. 企業活動にともなう環境への影響を把握し、環境保護の継続的改善と環境汚染の予防に取り組みます。
2. 環境に関する法規制、条例及び地域との協定などを遵守すると共に、「具体化対策」の策定及び実施により、環境保全の一層の向上に取り組みます。
3. エネルギー消費の削減、特に電力使用量の削減を図り、地球温暖化防止に努めます。
4. 廃棄物の削減と分別回収を図り、再資源化、再使用を推進し、資源の有効活用に努めます。
5. 省エネ、小形軽量化、部品点数の削減等環境に配慮した商品開発を推進します。
6. 化学物質の管理を徹底し、排出や流出などによる環境汚染の防止に努めます。
7. 購買に関しては、環境負荷の少ない資材、設備などグリーン調達を推進します。
8. 環境保護に関する社員教育を実施し、環境保全の意識向上に努めます。
9. 地球社会の一員として、環境保全の責任を果たし、安全で快適な地域社会づくりに貢献します。
10. 資源である水の有効利用を推進するため、節水に努め、水使用量の削減に努めます。

制定日 2012年9月25日

改定日 2013年7月 1日

西部電機株式会社

取締役社長

宮地 敬四郎

4. 環境目標

- 当社では、2012年10月よりエコアクション21の取組を開始し、2013年9月認証を取得、その活動を維持継続するため、2016年度の環境目標を次のように策定しました。
- 2016年9月に認証を拡大した各支店・営業所分も、2014年度データを基に目標を策定、併せて全社としての目標も策定しました。
- 2015年度より、すべての環境負荷値について基準年を2014年度に変更し、排出量を売上高で除した値を基に毎年1%の追加削減目標を設定しました。

① 全社

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標		中長期目標			
		2014年度 (実績値)	2016年度		2019年度 (3年後目標)		2021年度 (5年後目標)	
(1) 二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	252	245	(△2%)	239	(△5%)	234	(△7%)
二酸化炭素排出量の削減								
①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	219	213	(△2%)	208	(△5%)	204	(△7%)
②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	18.6	18.2	(△2%)	17.7	(△5%)	17.3	(△7%)
③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	14.1	13.9	(△2%)	13.4	(△5%)	13.2	(△7%)
(2) 廃棄物の削減								
①一般廃棄物の削減	kg/ 百万円	2.16	2.12	(△2%)	2.06	(△5%)	2.01	(△7%)
②産業廃棄物の削減	kg/ 百万円	10.45	10.24	(△2%)	9.93	(△5%)	9.72	(△7%)
(3) 水使用量の削減	m ³ / 百万円	0.52	0.50	(△2%)	0.49	(△5%)	0.48	(△7%)
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/ 百万円	8.58	8.41	(△2%)	8.15	(△5%)	7.98	(△7%)
(5) グリーン購入の推進								
①事務用品のグリーン購入率の向上	%	81	83		86		88	
(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進								
①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	461		475		484	
②環境に配慮した製品の開発	件	-	6		9		11	
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する					

備考) ・ 二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。

・・・ 東京電力㈱ 0.521 中部電力㈱ 0.509 関西電力㈱ 0.516 中国電力㈱ 0.706 九州電力 0.617 kg-CO₂/kWh

・ () は基準年に対する削減率を示す。

・ 基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。

・ その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。

・ 環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2016年度経営計画を基に作成した。

・ グリーン購入率=グリーン購入品目数/全体の購入品目数*100とする。

・ グリーン購入品とは、環境対応商品と明記してあるものを言う。

・ 環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。

・ 表中の - は非該当を示す。

② 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ

(事業年度:4月～翌年3月)

項 目	単位	基準年	単年度目標		中長期目標				
		2014年度 (実績値)	2016年度		2019年度 (3年後目標)		2021年度 (5年後目標)		
(1) 二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	227	222	(△2%)	215	(△5%)	211	(△7%)	
二酸化炭素排出量の削減	①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	212	207	(△2%)	201	(△5%)	197	(△7%)
	②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	6.5	6.3	(△2%)	6.1	(△5%)	6.0	(△7%)
	③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	8.8	8.5	(△2%)	8.2	(△5%)	8.1	(△7%)
(2) 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	kg/ 百万円	1.87	1.84	(△2%)	1.78	(△5%)	1.74	(△7%)
	②産業廃棄物の削減	kg/ 百万円	10.00	9.80	(△2%)	9.50	(△5%)	9.30	(△7%)
(3) 水使用量の削減	m ³ / 百万円	0.47	0.46	(△2%)	0.45	(△5%)	0.44	(△7%)	
(4) 物質使用量(購入量)の削減	kg/ 百万円	8.32	8.15	(△2%)	7.9	(△5%)	7.73	(△7%)	
(5) グリーン購入の推進	①事務用品のグリーン購入率の向上	%	81	83	86	88			
	環境に配慮した製品開発とサービスの推進								
(6)	①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	-	461	475	484			
	②環境に配慮した製品の開発	件	5	6	9	12			
(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	PRTR制度対象物質の適正使用、適正管理に努め、届出を遵守する						

備考) ・二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の、九州電力㈱の実排出係数 0.617kg-CO₂/kWh を用いた。
 ・()は基準年に対する削減率を示す。
 ・基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
 ・その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
 ・環境に配慮した製品の開発については、各事業部の2015年度経営計画を基に作成した。
 ・グリーン購入率=グリーン購入品目数/全体の購入品目数*100とする。
 ・グリーン購入品とは、環境対応商品と明記してあるものを言う。
 ・環境改善活動と製品開発は、QC、VE、IE各事務局及び各事業部提出の年度目標の合計である。
 ・表中の - は非該当を示す。

③ 支店・営業所・サービスセンタ

(事業年度:4月～翌年3月)

項目	単位	基準年	単年度目標	中長期目標		
		2014年度 (実績値)	2016年度	2019年度 (3年後目標)	2021年度 (5年後目標)	
(1) 二酸化炭素排出量の削減	① 二酸化炭素排出量	支店・営業所・サービスセンタ 計	25.1	24.6 (△2%)	23.8 (△5%)	23.3 (△7%)
		東京	3.45	3.38	3.28	3.21
		東サ	8.14	7.98	7.73	7.57
		大阪	1.61	1.58	1.53	1.50
		大サ	4.16	4.08	3.95	3.87
		名古屋	6.55	6.42	6.22	6.09
		広島	1.19	1.16	1.13	1.10
		支店・営業所・サービスセンタ 計	7.67	7.52 (△2%)	7.29 (△5%)	7.14 (△7%)
	東京	2.05	2.01	1.94	1.90	
	東サ	1.68	1.64	1.59	1.56	
	大阪	0.75	0.74	0.71	0.70	
	大サ	0.74	0.73	0.70	0.69	
	名古屋	1.53	1.50	1.46	1.43	
広島	0.92	0.90	0.88	0.86		
② ガソリン使用量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	12.1	11.9 (△2%)	11.5 (△5%)	11.3 (△7%)	
	東京	1.41	1.38	1.34	1.31	
	東サ	2.21	2.16	2.10	2.05	
	大阪	0.86	0.84	0.81	0.80	
	大サ	2.74	2.68	2.60	2.55	
	名古屋	4.65	4.56	4.42	4.33	
	広島	0.26	0.26	0.25	0.25	
	支店・営業所・サービスセンタ 計	5.30	5.19 (△2%)	5.04 (△5%)	4.93 (△7%)	
	東京	0.00	0.00	0.00	0.00	
	東サ	4.26	4.17	4.05	3.96	
	大阪	0.00	0.00	0.00	0.00	
	大サ	0.68	0.67	0.65	0.63	
	名古屋	0.36	0.35	0.34	0.33	
広島	0.00	0.00	0.00	0.00		
(2) 廃棄物排出量の削減	① 一般廃棄物の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,399	4,311 (△2%)	4,179 (△5%)	4,091 (△7%)
		東京	1,261	1,235	1,197	1,172
		東サ	445	436	423	414
		大阪	1,086	1,064	1,032	1,010
		大サ	892	874	847	830
		名古屋	478	468	454	445
		広島	238	233	226	221
		支店・営業所・サービスセンタ 計	6,885	6,747 (△2%)	6,540 (△5%)	6,403 (△7%)
	東京	3,620	3,548	3,439	3,367	
	東サ	1,515	1,484	1,439	1,408	
	名古屋	1,750	1,715	1,663	1,628	
	(3) 水使用量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	518	508 (△2%)	492 (△5%)	482 (△7%)
		東京	-	-	-	-
東サ		211	207	200	196	
大阪		-	-	-	-	
大サ		124	122	118	115	
名古屋		183	179	174	170	
広島		-	-	-	-	
(4) 物質購入量の削減	支店・営業所・サービスセンタ 計	4,024	3,943 (△2%)	3,823 (△5%)	3,742 (△7%)	
	東京	1,231	1,206	1,169	1,145	
	東サ	806	790	766	750	
	大阪	791	775	751	736	
	大サ	477	467	453	444	
	名古屋	590	578	561	549	
	広島	129	126	122	120	
	(5) グリーン購入の推進					
① 事務用品グリーン購入率の向上	%	81	83	86	88	

備考) ・二酸化炭素排出量における電力の排出係数は、2014年度の各電力会社の実排出係数を用いた。
 … 東京電力(株) 0.521 中部電力(株) 0.509 関西電力(株) 0.516 中国電力(株) 0.706 kg-CO₂/kWh
 ・()は基準年に対する削減率を示す。
 ・基準年の2014年度売上高は、15,164百万円として、原単位目標値を設定した。
 ・その他化石燃料(軽油、灯油、液化石油ガス、都市ガス)については、使用量が少ないため、各項目を合計した。
 ・グリーン購入率=グリーン購入品目数/全体の購入品目数*100とする。
 ・グリーン購入品とは、環境対応商品と明記してあるものを言う。
 ・東京サービスの基準年水使用量に関しては、水もれが発生しているため、推定値で示した。
 ・札幌出張所は、東京支店に含む。
 ・表中の各サイトの略称は、下記の通りである。
 東京 … 東京支店、東サ … 東京サービスセンタ、大阪 … 大阪支店、大サ … 大阪サービスセンタ
 名古屋 … 名古屋営業所・名古屋サービスセンタ、広島 … 広島営業所
 ・表中の - は不明又は非該当を示す。

5. 環境活動計画

- 2016年度の環境活動計画は、以下のとおりです。
- なお、「本社・工場」は「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」を、「支・営・サ」は拡大予定のその他の支店・営業所・サービスセンタを示しています。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	電力使用量の削減	日常的節電(人がいないときは照明、PCオフ等)各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○
		エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○
		毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○
		気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	-
		エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20℃にする。	-	○
		精密工場の温度設定を夏期24℃、冬期22℃にする。	○	○
②	ガソリン使用量の削減	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○
		計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○
③	その他の化石燃料の削減	軽油使用量の削減	○	○
		ガス使用量の削減	○	-
		精密工場の温度、湿度の設定値を見直し、削減を図る。	○	-

(2) 廃棄物排出量の削減

① 一般廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
ア	生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当者を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○
イ	シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。又月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	-

② 産業廃棄物排出量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	サ
ア	廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	-
イ	廃油の削減	業者に買取が可能な廃油は、分別を徹底させ、200Lドラム缶単位で排出量を把握し、EA21委員会に報告する。	○	○
ウ	廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木材に関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	-

*「サ」はサービスセンタを示す

(3) 水使用量の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	日常生活水の削減	節水シールを貼り、節水を意識づける。	○	○

(4) 物質使用量(購入量)の削減

環境活動項目		具体的な取組活動	活動サイト	
			本社・工場	支・営・サ
①	木材、ダンボール、紙使用の削減	毎月購入量を集計し、EA21委員会にて報告、廃棄量と合わせて、削減案立案に向け分析する。	○	○

*「支・営・サ」は紙使用のみ

(5) グリーン購入の推進

① 事務用品のグリーン購入率の向上

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 事務用品のグリーン購入	データの収集、EA21委員会にて報告。	○	○
	上長承認時にチェック。	○	○

② 製造部品のグリーン調達の推進

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 環境に優しいメッキの使用	6価クロム、メッキを、3価クロムメッキへ変更の維持(マテハン事業部で使用のボルトナット類をすべて3価クロムに変更、これを維持、管理する。又、その他の部品に関しても、積極的に3価クロム化を推進し、状況を、毎月EA21委員会にて報告する。	○	-

(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3カ月に一度)及び活動の推進。	○	○
② 環境配慮製品の開発	EA21委員会、開発状況について報告する。	○	-

(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行い EA21委員会に報告、適正管理を努め、届出の遵守を備える。	○	-

(8) その他

環境活動項目	具体的な取組活動	活動サイト	
		本社・工場	支・営・サ
① 内部監査の実施	内部監査計画書に基づき年に1度内部監査を行う。支店・営業所・サービスセンターは、必要書類の作成を行う。	○	○
② 教育訓練の実施	教育訓練計画書に基づき、定期的に教育訓練を行い、エコアクション21の全社員への浸透を図る。	○	○

* - は非該当

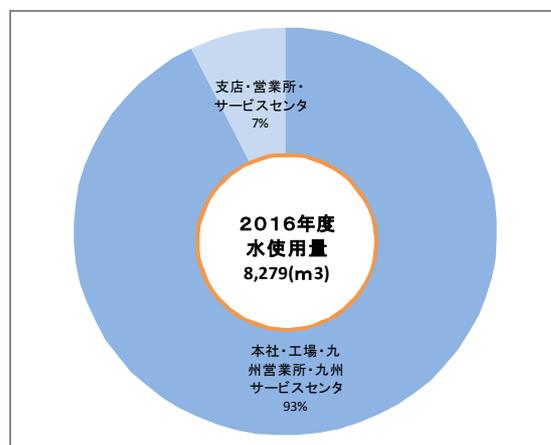
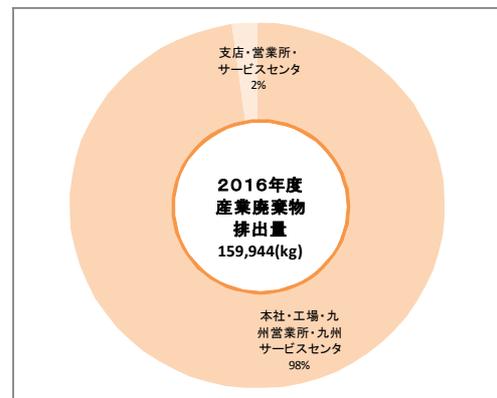
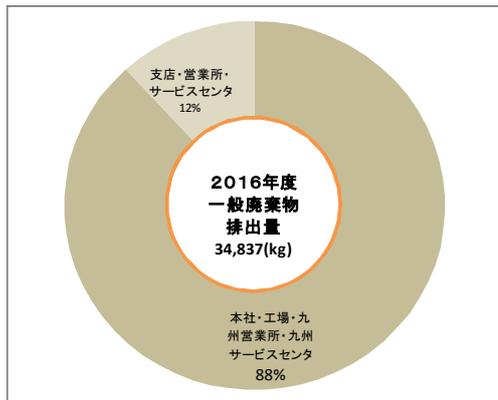
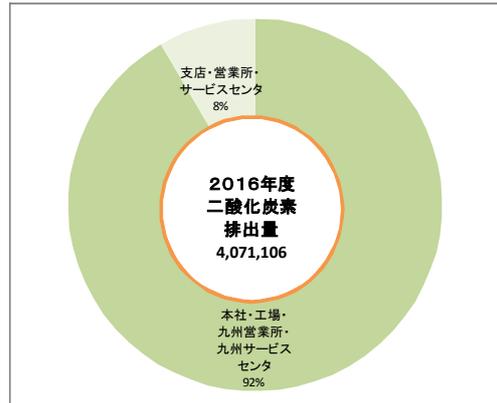
6. 環境負荷の実績とサイト別排出特性

- 当社の主要環境負荷（CO₂ 排出量、廃棄物排出量、水使用量（総排水量））のサイト別排出構造は、以下のとおりです。
- いずれの環境負荷も「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」が全社の約9割を占めており、2016年拡大範囲「支店・営業所・サービスセンタ」については、1割前後で小さいという排出特性をもっています。

環境負荷の実績及び配分

2016年度実績及びサイト別配分

サイト名	二酸化炭素		一般廃棄物		産業廃棄物		水使用量	
	実績 (kg-CO ₂)	構成比	実績(kg)	構成比	実績(kg)	構成比	実績(m ³)	構成比
本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	3,729,638	92%	30,734	88%	156,534	98%	7,678	93%
支店・営業所・サービスセンタ								
東京支店・札幌出張所	46,337	1.1%	820	2.4%	0	0%	-	-
東京サービスセンタ	114,214	2.8%	463	1.3%	665	0%	273	3.3%
大阪支店	20,656	0.5%	1,243	3.6%	0	0%	-	-
大阪サービスセンタ	66,341	1.6%	779	2.2%	2,520	2%	158	1.9%
名古屋営業所・名古屋サービスセンタ	84,739	2.1%	505	1.4%	225	0%	170	2.1%
広島営業所	9,180	0.2%	295	0.8%	0	0%	-	-
拡大範囲計	341,469	8%	4,104	12%	3,410	2%	601	7%
全社合計	4,071,106	100%	34,837	100%	159,944	100%	8,279	100%



7. 環境目標の実績と環境活動計画の取組結果及びその評価、今後の取組

- 今回は2016年度（2016年4月～2017年3月）における環境への取組状況を「本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ」、拡大範囲「支店・営業所・サービスセンタ」及び「全社」に区分して整理、評価しました。
- 原単位表記した環境目標については、実績値を期間内の売上高で割って計算しています。

<環境目標の実績（全社）>

- 環境目標の達成実績（全社）は以下のとおりです。設定した7項目（サブ含め12項目）のうち、事務用品のグリーン購入率の向上と環境に配慮した製品の開発の2項目は、目標達成できませんでした。

事業年度は4月から翌年3月

項目	単位	2014年度 (基準年)	2015年度	2016年度(2016年4月～ 2017年3月)				排出量及び使用量(購入量)実績				
		実績値	実績値	目標値	実績値	目標 達成率	達成状 況判定	単位	2014年度	2015年度	2016年度	
(1) 二酸化炭素排出量の削減	二酸化炭素排出量計	kg-CO ₂ /百万円	252	219	247	176	141%	○	kg-CO ₂	3,819,343	3,875,634	4,071,106
	①電力使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	219	193	215	157	137%	○		3,322,866	3,410,513	3,641,661
	②ガソリン使用量の削減	kg-CO ₂ /百万円	18.6	15.5	18.2	11.3	161%	○		281,913	273,311	261,875
	③その他の化石燃料の削減	kg-CO ₂ /百万円	14.1	10.8	13.9	7.2	192%	○		214,565	191,811	167,570
(2) 廃棄物の削減	①一般廃棄物の削減	kg/百万円	2.16	2.02	2.12	1.50	141%	○	kg	32,931	35,780	34,837
	②産業廃棄物の削減	kg/百万円	10.45	9.14	10.16	6.90	147%	○		158,450	161,662	159,944
(3)	水使用量の削減	m ³ /百万円	0.52	0.45	0.50	0.36	141%	○	m ³	7,574	3,088	8,279
(4)	物質使用量(購入量)の削減	kg/百万円	8.58	8.18	8.39	6.60	127%	○	kg	130,133	144,699	152,962
(5)	グリーン購入の推進											
	①事務用品のグリーン購入率の向上	%	81	77.1	83	77.8	94%	×	品目	-	3,088	3,272
(6)	環境に配慮した製品開発とサービスの推進											
	①環境改善活動(QC、VE、IE)の完結報告	件	533	496	461	493	94%	○	件	533	496	493
	②環境に配慮した製品の開発	件	5	7	4	3	78%	×	件	5	7	3
(7)	化学物質の適正使用・適正管理の徹底	-	届出済	届出済	2017年6月届出済			○	-	-	-	-

- 環境目標毎にとりまとめた目標達成状況の詳細と、それに対応した取組活動の実施状況、その評価と今後の取組方針は以下に示すとおりです。

(1) 二酸化炭素排出量の削減

環境目標を達成できました。各職場で目標管理が徹底されています。しかし、項目別に見ると、液化石油ガス（LPG）が達成されていません。要因は、食堂での作業方法が変更されたことによるもので、現在は改善されています。電力が削減できた要因の1つとして精密機械部門工場の恒温室に関する、湿度コントロール調節や外気取入れのタイミングなどを効果的に実施できたことがあげられます。来年度は、夏場の暑さに対応してデマンドシステムを調整すると共に、よりいっそう意識した節電を呼び掛けていきます。

<環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	基準年	2015年度 (2015年4月～ 2016年3月)		目標 達成率	達成状 況判 定	2014年度 排出量 (kg-CO ₂)	2015年度 排出量 (kg-CO ₂)		
		2014年度 実績値	目標値	実績値						
(1) 二酸化炭素排出量の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO ₂ /百万円	227	225	199	113%	○	3,439,027	3,518,255	
	支店・営業所・サービスセンタ		25.1	24.8	20.2	123%	○	380,317	357,379	
	全社		252	249	219	114%	○	3,819,343	3,875,634	
	①電力使用量の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO ₂ /百万円	211	209	187	112%	○	3,206,769	3,297,793
	支店・営業所・サービスセンタ	7.7		7.6	6.4	119%	○	116,097	112,719	
	全社	219		217	193	112%	○	3,322,866	3,410,513	
	②ガソリン使用量の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	kg-CO ₂ /百万円	6.5	6.4	5.7	112%	○	98,067	101,436
	支店・営業所・サービスセンタ	12.1		12.0	9.7	123%	○	183,846	171,875	
	全社	18.6		18.4	15.5	119%	○	281,913	273,311	
	③その他の化石燃料の削減	本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	都市ガス	7.4	7.3	5.6	131%	○	112,575	99,062
			液化石油ガス(LPG)	0.9	0.9	1.0	96%	×	14,073	16,908
			軽油	0.5	0.5	0.17	279%	○	7,542	3,055
計			8.8	8.8	6.7	130%	○	134,191	119,026	
支店営業所・サービスセンタ		5.3	5.2	4.1	127%	○	80,374	72,785		
全社	14.1	14.0	10.8	129%	○	214,565	191,811			

備考) ・2016年度の生産高(売上高)は、23,183百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。

判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九州営業所	支・営・サ	全社
① 電力使用量の削減	日常的節電(人がいないときは照明、PCオフ等)については、各職場担当者を決め管理し状況を毎月EA21委員会にて報告する。	○	○	○
	エアコンフィルターの清掃清掃時期を、夏期は6月、冬期は10月に設定し、各部署で確実に清掃を行うよう徹底を図る。	○	○	○
	毎月の電力量をグラフ化し掲示することによって節電への意識を高める。	○	○	○
	気温、状況に対応し冷暖房のデマンドシステムの管理を行う。	○	○	○
	エアコンの温度設定を冷房28°、暖房20°にする。	-	○	○
② ガソリン使用量の削減	精密工場の温度設定を夏期24°、冬期20°にする。(6月より実施)	○	○	○
	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○	○
③ その他の化石燃料の削減	計画に則り、車両更新時には、ハイブリット車への変更を推進し、状況をEA21委員会へ報告する。	○	○	○
	走行距離、使用量のチェックリストによるデータを収集(毎月)・分析し、EA21委員会にて報告する。	○	○	○
	データを収集分析し、EA21委員会へ報告する。	○	-	○
	精密工場の温度、湿度の設定値を見直し、削減を図る。	○	-	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない
-：非該当

(2) 廃棄物排出量の削減

①一般廃棄物排出量の削減

環境目標を達成できました。しかし項目別に見ると、シュレッダー屑は目標未達です。また、OA用紙の排出量が増加しています。その削減に対する今後の対策としてコピー枚数の削減を検討していきます。例えば、新機種のコピー機の機能の有効な利用でミスプリントが減った職場があります。今後、その有効性をデータで確認し、全社に推奨するなどして、削減に繋げていきます。

<環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	2014年度 (基準年)	2015年度	2016年度 (2016年4月～2017年3月)		目標 達成率	達成 状況 判定	2014年度 排出量 (kg)	2015年度 排出量 (kg)	2016年 度排出 量(kg)
		実績値	実績値	目標値	実績値					
① 一般廃棄物排出量の削減 九州サービスセンター 本社・工場・支店・営業所	生ごみ・その他	1.59	1.49	1.51	1.11	136%	○	24,114	26,274	25,786
	シュレッダー屑	0.02	0.07	0.04	0.04	88%	×	344	1,252	1,012
	OA用紙	0.203	0.169	0.199	0.13	149%	○	3,080	2,990	3,090
	その他一般廃棄物	0.064	0.065	0.062	0.036	171%	○	994	1,085	846
	計	1.88	1.79	1.84	1.33	139%	○	28,532	31,601	30,734
	支店・営業所・サービスセンター	kg	4,399	4,180	4,311	4,104	105%	○	4,399	4,180
全社	kg/百万円	2.16	2.02	2.12	1.50	141%	○	32,931	35,780	34,837

備考) ・2016年度の生産高(売上高)は、23,183百万円として計算しました。

・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。

・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない

・支店・営業所・サービスセンターに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
ア 生ごみなど、可燃廃棄物排出量の削減	各職場担当を決め排出量を管理し、月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	○	○
イ シュレッダー屑の分別	生ごみなどと混在して廃棄されているシュレッダー屑を分別廃棄し、リサイクル化する。又月々の廃棄量をEA21委員会にて報告する。(各職場にて、その月に廃棄したゴミ袋の個数を把握し報告)	○	-	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない
-：非該当



* 廃棄物置場にカラスネットを取付けています。

② 産業廃棄物排出量の削減

環境目標を達成できました。排出量も減少しています。局所排気装置の清掃時に出る塗料の付着したフィルターの廃棄方法を改善し、分別が徹底されたため、余分なものを除いてフィルターのみを重量を正しく測定できるようになり、廃プラスチックの量の減少に繋がりました。しかし、廃油、木材は総排出量で増加しています。今後の対策として、分別の方法等を検討していきます。

<環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	2014年度 (基準年)	2015年度	2016年度 (2016年4月～2017年3月)		目標 達成率	達成 状況 判定	2014年度	2015年度	2016年度
		実績値	実績値	目標値	実績値			排出量 (kg)	排出量 (kg)	排出量 (kg)
② 産業廃棄物排出量の削減 本社・工場・九州営業所・九州サービスセンタ	廃プラスチック	2.2	1.9	2.1	0.9	228%	○	33,099	34,411	21,779
	廃油	3.4	2.9	3.4	2.5	137%	○	51,888	50,439	56,885
	木材	3.1	2.4	3.1	2.3	135%	○	47,374	42,610	52,670
	ダンボール	1.3	1.5	1.2	1.1	114%	○	19,200	27,320	25,200
	計	10.0	8.8	9.8	6.8	145%	○	151,561	154,780	156,534
	支店・営業所・サービスセンタ	kg	6,885	6,882	6,813	3,410	200%	○	6,885	6,882
全社	kg/百万円	10.45	9.14	10.2	6.9	147%	○	158,450	161,662	159,944

備考) ・2016年度の生産高(売上高)は、23,183百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九管・九サ	支・営・サ	全社
ア 廃塗料(廃プラスチック)の削減	塗装仕様書に基づき適正な使用量を計画し、管理する。	○	○	○
イ 廃油の削減	分別表示を行い、分別を徹底させる。	○	○	○
	リサイクル品として業者に収集を依頼している木材に関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	○	○
ウ 廃棄木材(リサイクル)の削減	リサイクル品として業者に収集を依頼している木パレットに関し、毎月廃棄量を集計し、EA21委員会に報告する。	○	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

(3) 水使用量の削減

環境目標を達成できました。しかしながら、使用量は前年より増加しています。要因としては、生産量の増加もありますが、夏場の芝生などへの散水も影響しています。また、「支店・営業所・サービスセンタ」では、少量ですが水漏れもありました。来年度は、場所毎に散水の方法や時間を再確認し、無駄を見つけ改善を行います。また、水漏れなどに早めに発見するため、今後も少量の変化にも注視していきます。

<環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	2014年度(基準)	2015年度	2016年度 (2016年4月~2017年3)		目標 達成率	達成 状況 判定	2014年度	2015年度	2016年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値			使用量 (m ³)	使用量 (m ³)	使用量 (m ³)	
① 水使用量の削減	本社・工場・九州 営業所・九州 サービスセンタ	m ³ /百万円	0.47	0.42	0.46	0.33	139%	○	7,056	7,476	7,678
	支店・営業所・サービスセンタ	m ³	518	552	508	601	85%	×	518	552	601
	全社	m ³ /百万円	0.52	0.45	0.50	0.36	141%	○	7,574	8,028	8,279

備考) ・2016年度の生産高(売上高)は、23,183百万円として計算しました。
 ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
 ・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない
 ・支店・営業所・サービスセンタに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
① 日常生活水の削減	節水シールを貼付、節水を意識させる。	○	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

(4) 物質使用量(購入量)の削減

環境目標を達成できました。しかしながら、使用量は前年より増加しています。木材、ダンボールの増加の要因としては、生産量の増加が影響しています。今後の対策として、ダンボールについては、主要なサイズの発注点などを調査し、適正在庫の管理を推進していきます。また、紙の使用量も増加しています。要因は客先提出書類の増加ですが、今後も、どのような場合により多く紙を使用しているか、削減対策を行っているかなどを調査していきます。

<環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	2014年度(基準)	2015年度	2016年度(2016年4月～2017年3月)		目標達成率	達成状況判定	2014年度	2015年度	2016年度	
		実績値	実績値	目標値	実績値			使用量(kg)	使用量(kg)	使用量(kg)	
①物質使用量の削減 九州サービスセンター 本社・工場・ 支店・営業所・サービスセンター	木材	kg/百万円	4.47	4.80	4.38	3.80	115%	○	67,735	84,935	88,205
	ダンボール	kg/百万円	3.28	2.61	3.21	2.17	148%	○	49,679	46,204	50,373
	紙	kg/百万円	0.57	0.54	0.56	0.43	130%	○	8,688	9,509	10,005
	計	kg/百万円	8.32	7.95	8.15	6.41	127%	○	126,109	140,648	148,583
	支店・営業所・サービスセンター	kg	4,024	4,051	3,944	4,379	90%	×	4,024	4,051	4,379
全社	kg/百万円	8.58	8.18	8.39	6.60	127%	○	130,133	144,699	152,962	

備考)・2016年度の生産高(売上高)は、23,183百万円として計算しました。

- ・目標達成率は、目標値÷実績値×100で計算しました。
- ・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない
- ・支店・営業所・サービスセンターに関しては、量が少ないので原単位ではなく排出量の実績で評価しています。

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
① 木材、ダンボール、紙使用の削減	使用量を毎月EA21委員会で報告し、増減の傾向や理由を把握して削減を図る。	○	○	○

備考) 実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

(5) グリーン購入の推進

① 事務用品のグリーン購入率の向上

環境目標を達成できませんでした。今後は、購入時に検討しやすいように、具体例をあげたグリーン品リストを作成、配布し、意識の向上を図ります。

<環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	2014年度(基準年)	2015年度	2016年度(2016年4月～2017年3月)		目標達成率	達成状況判定	2014年度	2015年度	2016年度
		実績値	実績値	目標値	実績値			グリーン購入品目数	グリーン購入品目数	グリーン購入品目数
①事務用品のグリーン購入率の向上 本社・工場・九州営業所 九州サービスセンター	%	81.3	79.3	83.0	77.8	94%	×	2,084	2,243	2,268
		-	72.0		77.0	93%	×	-	845	1,004
		-	77.1		77.8	94%	×	-	3,088	3,272

備考)・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない -：判定不能

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定		
		本社・工場・九 営・九サ	支・営・サ	全社
① 事務用品のグリーン購入	データの収集、EA21委員会にて報告。	○	○	○
	上長承認時にチェック。	○	○	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○：もれなく行われた △：ほぼもれなく行われた ×：行われたとは言えない

② 製造部品のグリーン調達の推進

2013年度より、数値目標による評価は廃止しましたが、環境活動計画は継続しています。

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定
① 製造部品のグリーン調達 (環境に優しいメッキの使用)	6価クロム、メッキを、3価クロムメッキへ変更の維持(マテハン事業部で使用のボルトナット類をすべて3価クロムに変更、これを維持、管理する。又、その他の部品に関しても、積極的に3価クロム化を推進し、状況を、毎月EA21委員会にて報告する。	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

(6) 環境に配慮した製品開発とサービスの推進

① 環境改善活動(QC, VE, IE)の完結報告

環境改善活動は、環境目標を達成できました。今年度より、年間目標だけでなく半年毎の目標を立て活動を行いました。年度では目標を達成できましたが、上半期では達成できていません。半期毎の目標の妥当性を検証するなど、各事務局と連携して活動を進めていきます。

② 環境に配慮した製品の開発

環境配慮製品の開発に関しては、今年度4件着手し、3件完了しましたが、結果的には目標を達成できませんでした。未完のものに関しては、次年度も開発を継続します。今後は、完結件数だけでなく、エネルギー使用量の低減や重量の軽減など、環境改善に関する具体的数値を目標化することを目指し、データ収集などを行っていきます。

<環境目標の達成状況>

環境目標項目	単位	2014年度 (基準年) 実績値	2015年度 実績値	2016年度(2016年4月~2017年3月)						目標 達成率	達成 状況 判定
				上半期		下半期		年度計			
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値		
① 環境改善活動(QC、VE、IE)の 完結報告件数	件	533	496	304	179	187	314	478	493	103%	○
② 環境配慮製品の開発	件	5	7	\	0	\	3	4	3	75%	×

備考)・判定区分 ○:達成できている ×:達成できていない -:判定不能

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定
① QC、VE、IEに関し、環境活動に有効な改善の件数の把握と活動の推進	完結件数の把握とEA21委員会や各委員会での報告(3か月に一度)及び活動の推進。	○
② 環境配慮製品の開発	EA21委員会で、開発状況について報告する。	○

備考) 環境活動実施状況の判定区分 ○:もれなく行われた △:ほぼもれなく行われた ×:行われたとは言えない

(7) 化学物質の適正使用・適正管理の徹底

環境目標を達成できました。今後も法令に基づき、毎年6月に使用量の届出を行うと共に、四半期毎に使用量を集計することで、排出量の管理を行っていきます。

<環境目標の達成状況>

- PRTR制度対象物質の適正使用に関して、データ収集し、2017年6月に使用量届出を行いました。

<環境活動計画の実施状況>

環境活動項目	具体的な取組活動	実施状況判定
① 化学物質の適正使用、適正管理の徹底	PRTR制度対象物質の集計を4半期毎に行いEA21委員会に報告、適正管理に努め、届出の遵守に備える。	○ 6月提出予定

備考)・判定区分 ○：達成できている ×：達成できていない -：判定不能

8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反訴訟等の有無

- 当社に関する環境関連法規等の遵守事項は、以下のとおりであり、2016年度遵守状況を確認した結果、法令違反等はありませんでした。
- また、関連機関や利害関係者からの違反指摘や訴訟等は、過去3年間ありませんでした。

主な環境関連法規	主な遵守事項
廃棄物処理法	マニフェストの発行、保管
フロン排出抑制法	許可業者への委託及び定期点検の実施
化管法(PRTR法)	特定化学物質の排出量を年に1度6月に届出する

9. 内部監査の実施状況

- 外部審査に先立って、環境管理システム全体の状況を内部監査した結果、環境への取組についてのガイドラインで規定する要求事項に適合していることを確認しました。
- 結果を代表者に報告し、環境管理責任者の指示を受け、集計資料を簡素化し、四半期集計と累計にまとめ、会議や、環境管理責任者への定期報告に活用しています。

10. 環境教育訓練の実施状況

●教育訓練計画書に基づき全社員対象に以下の内容で教育訓練を行いました。

2016年	4月	・・・	エコドライブについて（車両運転者向け）
2016年	4月	・・・	エコアクション21の概要（新入社員向け）
2016年	8月	・・・	環境経営システムの概要 （認証拡大にあたり、支店・営業所・サービスセンター新任委員を含む各委員向け） （外部講師）
2016年	9～10月	・・・	環境活動レポートの説明及び 2016年度活動中間報告（全社員向け）
2016年	11月	・・・	内部監査員教育



* 外部講師を招いての勉強会の様子

11. 全体の反省と今後の取組

エコアクション21の活動開始から4年が経過し、今年度は、2016年9月に認証範囲を拡大しました。活動を通して、数値変化から水漏れなどにも早めに対処できるようになりました。また、全体としては、生産量（売上）の増加にもかかわらず、ほとんどの項目で目標を達成することが出来ました。しかし、各排出量は増加しているので、さらに抑える努力が必要であること、また全社員の環境に対する意識を向上するため、昨年度開始した改善提案を充実させ、より全社的な活動にしていきます。また、目標は達成できているものの、増加傾向にある項目に関しては、引き続き要因を追及し、削減対策に繋げていきます。

12. 代表者よる全体評価と見直しの結果

二酸化炭素排出量の削減については前年度より生産量が31%増加しているが、前年度に対して6%程度のUPに抑えられ、よく目標管理されています。今後もこの姿勢で取り組んで下さい。一般廃棄物のOA用紙については、増加しているのので、ペーパーレス化を進めて少しでも量の削減に努めること。グリーン購入の推進に関しては、前年同様未達ですが、業務効率との関連でどこまで出来るのか、グリーン品候補リストを作成、配布し取り組んで下さい。また、前年度も提案しましたが、QC、VE、IE等の改善活動の改善数値も評価に入れて全体を評価すべきです。

13. 地域への貢献

- 会社周辺の清掃活動など、積極的に地域貢献を行っています。



*年末の会社周辺の清掃の様子

- 表紙の写真は、2017年4月、弊社の桜を外側から撮影した様子です。今年度よりライトアップをLED化しました。古賀市の桜の名所のひとつとなっています。